

2025 年度第 1 回教育課程編成委員会議事録
(観光科・テーマパーク科・鉄道科・国際ホテル科・ブライダル科・エアライン科・デュアル科)

日 時	2025 年 9 月 3 日(水) 13:00~14:30	場 所	N タワー1 階 バンケット実習室	進 行	石神	記 録	松本																																																								
出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 45%;">企業名・団体名</th> <th style="width: 25%;">名前(敬称略)</th> <th style="width: 25%;">分科会</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>一般社団法人日本旅行業協会 千葉県支部 支部長</td> <td style="text-align: center;">市丸 健介</td> <td>観光・鉄道</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>千葉都市モノレール株式会社</td> <td style="text-align: center;">今関 真治</td> <td>観光・鉄道</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>東武鉄道 株式会社</td> <td style="text-align: center;">遠藤 陽平</td> <td>観光・鉄道</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>イオンモールキッズドリーム合同会社</td> <td style="text-align: center;">折原 恭子</td> <td>テーマパーク</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>株式会社 旅行綜研</td> <td style="text-align: center;">石井 光彦</td> <td>観光・鉄道</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>一般財団法人 成田国際空港振興協会</td> <td style="text-align: center;">小林 寿恵</td> <td>エアライン</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>株式会社 エコーパートナーズ</td> <td style="text-align: center;">松井 哲至</td> <td>エアライン</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>ホテルニューオータニ幕張</td> <td style="text-align: center;">風間 昭彦</td> <td>ホテル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>株式会社 オータパブリケーションズ</td> <td style="text-align: center;">山下 裕乃</td> <td>ホテル・ブライダル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td>公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会</td> <td style="text-align: center;">佐々木 貴夫</td> <td>ブライダル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td>株式会社 C・B・H</td> <td style="text-align: center;">角野 真</td> <td>ブライダル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td>株式会社ミリアルリゾートホテルズ</td> <td style="text-align: center;">牧野 一</td> <td>ホテル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td>ホンダモビリティランド株式会社</td> <td style="text-align: center;">大塚 達也</td> <td>テーマパーク</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校側 13 名 古川、北、小川、栞原、大久保、松本、富澤、立石、塚本、柳堀、長谷川、柴崎、石神</p>								企業名・団体名	名前(敬称略)	分科会	1	一般社団法人日本旅行業協会 千葉県支部 支部長	市丸 健介	観光・鉄道	2	千葉都市モノレール株式会社	今関 真治	観光・鉄道	2	東武鉄道 株式会社	遠藤 陽平	観光・鉄道	3	イオンモールキッズドリーム合同会社	折原 恭子	テーマパーク	4	株式会社 旅行綜研	石井 光彦	観光・鉄道	5	一般財団法人 成田国際空港振興協会	小林 寿恵	エアライン	6	株式会社 エコーパートナーズ	松井 哲至	エアライン	7	ホテルニューオータニ幕張	風間 昭彦	ホテル	8	株式会社 オータパブリケーションズ	山下 裕乃	ホテル・ブライダル	9	公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会	佐々木 貴夫	ブライダル	10	株式会社 C・B・H	角野 真	ブライダル	11	株式会社ミリアルリゾートホテルズ	牧野 一	ホテル	12	ホンダモビリティランド株式会社	大塚 達也	テーマパーク
	企業名・団体名	名前(敬称略)	分科会																																																												
1	一般社団法人日本旅行業協会 千葉県支部 支部長	市丸 健介	観光・鉄道																																																												
2	千葉都市モノレール株式会社	今関 真治	観光・鉄道																																																												
2	東武鉄道 株式会社	遠藤 陽平	観光・鉄道																																																												
3	イオンモールキッズドリーム合同会社	折原 恭子	テーマパーク																																																												
4	株式会社 旅行綜研	石井 光彦	観光・鉄道																																																												
5	一般財団法人 成田国際空港振興協会	小林 寿恵	エアライン																																																												
6	株式会社 エコーパートナーズ	松井 哲至	エアライン																																																												
7	ホテルニューオータニ幕張	風間 昭彦	ホテル																																																												
8	株式会社 オータパブリケーションズ	山下 裕乃	ホテル・ブライダル																																																												
9	公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会	佐々木 貴夫	ブライダル																																																												
10	株式会社 C・B・H	角野 真	ブライダル																																																												
11	株式会社ミリアルリゾートホテルズ	牧野 一	ホテル																																																												
12	ホンダモビリティランド株式会社	大塚 達也	テーマパーク																																																												
議 事 録	<p>【全体会】13:00~13:20</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本日のスケジュール確認 ●評議委員紹介 ●校長挨拶(古川) 学園全体および学校現状(在籍数・就職率等)を踏まえた挨拶があった。 ●その他(次回運営等) <p>【分科会】13:30~14:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各業界に分かれ分科会実施 <p>ホテル・ブライダル科 → バンケット実習室 テーマパーク科 → 2 号館 4 階テーマパーク実習室 観光・鉄道科 → 8 号館 6 階トラベルサロン エアライン科 → 8 号館 6 階エアライン実習室</p>																																																														

【分科会】観光科、鉄道科

進行:立石により開会。

1. 就職について

・25年度 観光科2年生 9名在籍中7名内定(内定率77.8%)

未内定者:2名は就職活動中(1名は航空関連、もう1名は市役所職員(公務員))

内定者内訳:旅行系3名、鉄道系2名、空港系1名、その他1名

・25年度 鉄道科2年生 18名在籍中17名内定(内定率94.4%)

未内定者:1名は就職活動中(1名はバス会社受験中)

内定者内訳:鉄道会社15名、鉄道関連1名、ゴルフ場1名

・専門学校生の需要について(人柄、キャラクター面や、資格、学習面など、各社の必要人材)

旅行系:カウンター、添乗員、営業、内勤など⇒高校生の職業観とのギャップ、大学との競合

コロナ禍以降入学生が減っている。高校生への職業観をどうアプローチしていくか。

市丸氏:イベント企画や運営を出来る人材を求めている。

コロナにて大きく変化した。人材不足で、カウンターなくし、個人旅行はOTAに任せる。

若い人材がいなく、イベント会場運営が元添乗員や旅行会社が長けており、人を案内したり、話したりする

人材が新たな活躍となっている。PCスキルとお客様とお打ち合わせしていただいている。

旅行業界の考え方が変わっており、地域共創に力を入れており自治体と共に人が来て、

何をどうしていくかを旅行会社が働きかけていくことで、受託事業を拡大している。

専門性が高く目指すものがはっきりとしている専門学校生にメリットがあるのではないかと感じている。

石井氏:今後のビッグイベントに添乗員や運営スタッフやディレクター、SPを養成していく。

また航空業界やインバウンドやクルーズへの人材派遣が増えてきている。業種が変わってきている。

中途採用がほとんどのため、新卒採用で海外添乗員は難しい。国内添乗でも25歳前後のため大学生でも

稼働日数に対する日当制度がほとんど。8割女性の業界。年俵は以前より上がっている。

2018年比で7割ほどの回復状況。クルーズでのチェックイン業務メイン。エクスカージョンでガイド派遣

もあるが英語力必須。通訳案内士を取得していなくても案内は可能。

鉄道系:駅務、車掌、運転士、技術系、貨物など⇒運転士を目標としない学生、貨物系の就職

今関氏:運転士の高齢化によって今後不足していく中、自動運転化技術はあるが、異常時対応のため

人の乗務は必要。技術系は特に高所で高温となってきたため、給与体系含め職場環境改善も課題。

遠藤氏:需要がある。専門的な業界に対する実務に対する理解度が高い。どちらの業界も懂れて入社し

ている方が多かったが、働く価値観が変わってきている気がしている。時間的拘束が長い部分が入社後

ギャップが起きていることもある。アンマッチを学生と向き合っていく中で、この仕事を人生と向き合っ

ていくことが求められている。働く価値観をカリキュラムに入れていただくと良いのでは。

2. 2026年度入学生カリキュラムについて

・観光科コース名称の変更 トラベルアウトドアコース⇒観光トラベルコース

アウトドア名称が入学検討者にはあまり響かなかった⇒観光分野の一部として授業では残す

・観光科/鉄道科の実習科目(2026年度履修表を参照)

全学科実習3単位(90時間)を設定し、現場を経験する機会を作る

<課題点>

・実習先の選定 鉄道業は現場での実習が難しい

⇒JR東日本、東京地下鉄、新規実習先:富士山麓電気鉄道(河口湖ロープウェイ)

駅勤務は授業との兼ね合いがあり、制限が出てくる。また遠方の場合には宿泊等の課題あり

今関氏:車椅子対応が必要になる際もあるので、駅担当社員に確認してみる。

遠藤氏:既存のアルバイト受け入れは現状難しいが、大学と単位認定型のインターンシップを5日間×6時間などは実施できる可能性あり。

・観光業は添乗やイベントなど単発の実習のみ
⇒世界陸上アテンド、大型団体のバス誘導、添乗業務等固定化されている業務が少なく、ホテル・テーマパーク等と異なるため学生のメリットを見出したい

市丸氏:単発イベントだと来ていただいた学生に実習としての価値があるか不明。以前就活面接対策やマナーセミナー等で求められる人材や各セクションの担当者を本社で実施したこともある。

石井氏:空港で航空会社や添乗員とのやり取りや、本社でビザの渡航手続き等があるが、事前に覚える業務処理に時間を費やしてしまう可能性が高い。

3. 質疑応答(業界トピックス)

石井氏:インバウンド対策Iはどのような内容?
⇒インバウンド実務検定初級を参考にしながら、日本の様々な内容を外国籍の方に伝えられるようにする。

市丸氏:留学生には活躍できる場を提供できるかも。日本人に対して母国のことを案内してもらったり、自治体を活性化するために、社員と共にプログラムを作り上げることができる機会がある。

遠藤氏:人材不足から外国人の採用を、特定技能枠導入を検討している鉄道会社もあり

4. その他

企業実習先の開拓の協力依頼

進行:立石が分科会を閉会した。

【分科会】テーマパーク科

進行:石神により開会

1. 企業に必要なスキル・今後の人材育成に関して

大塚様:アルバイトをしていない、世の中の事をまだ知れていない人はビジネスマナーを学校で学び身につけてほしい。

折原様:以前より働いてからでないとい一般教養などが備わっているのかわからないようになってきている。

体調不良の連絡や前日連絡できることを、当日になってから連絡するなど当たり前があたりまえでなくなってきたおり、マナーとして覚えてほしいと感じる事がある。

2. 企業が必要とする人材

長谷川:保守的な学生が増えてきている中、挑戦して学ぶ方がいいのか確実を求めた方がいいのか等企業として考えている事はあるか。

折原様:コミュニケーション力、自分から発信し行動できる行動力が育つように会社として取り組んでいる。

3. 実習受け入れ及び採用等に関して

石神:学生の生活リズムに差があり、学校から企業ではなく保護者から企業に連絡入れてしまう事があった。

大塚様:学生からの苦情(宿泊施設での騒音等)があり先生のような立ち回りをする必要があった。

折原様:当社の採用基準に関してはここ数年ハードルが高くなってきている。以前は希望を込めて採用してみて、やはり無理だった。となることが多かったが、現在は難しそうだと感じたらその時点でお断りをしてることが多い。

大塚様：当社にインターンシップに関しては次年度以降も今後とも引き続き、実習で男女問わず人数の受け入れが可能なので声をかけてほしい。

4. 千葉県お仕事体験プログラム(キッズハッピー)に関して

石神：学生が考えている内容を企業で働いている卒業生にプレゼンし、評価する流れを作ろうと思う。入社した職員が社内でプレゼンをする等そのような動きはあるか

大塚様：新入社員はGWまでに社員として表に立てるような人材に育てるカリキュラムはある。最終学歴の違いというよりも、意識の違いで差が明確に出ているとは感じる。社会人になる意識を持てるかどうかというところだと思う。

折原様：当社の事業の一環としてイベントの仕事を卒業生が請け負っており、外部で活躍している。自分発信で何かが出来ると必要な人材が必要と思う。いいと思うことをやる。平均的にではなく自分にとってスペシャルなものがあればそれが強みになる。

進行石神が分科会を閉会した。

【分科会】ホテル科、ブライダル科、デュアル科

進行小川により分科会を開会

1. 2025年度 各業界または各企業の現状および最新情報

風間氏：4月以降宿泊の稼働は良く、この夏は対前年8%上昇の状況。

例年近隣のファミリー層の利用が多いが、猛暑の影響により屋外プールの営業が苦戦。

レストランは若干苦戦している。個室利用が減少している。

バンケットは一般企業のイベントが近年も控えめな傾向である。

ブライダルは、都内流出が多く、新規来館件数は苦戦を強いられているが、成約率は好調。

幕張メッセでのイベントとの連携、地元根付いたマーケット、またスポーツ(バレー・野球・バスケットなど)に関係するビジネスも増えてきており、ご利用いただいている。

山下氏：ホテルについて、箱根・山梨エリア、九州エリア、東北エリアは全体的に稼働率が下がっている。

宿泊料金も安値になっている。大阪などのエリアは、万博の影響もあってにぎわっている。

ブライダルについて、ホテルブライダルは縮小傾向にあり、ブライダル部門を無くしたり、他部署と統合するなどのホテルが出てきている。ゲストハウスがホテルの魅力である「過ごし方」を打ち出してきていることによって、競合先も変わってきている。

新しい動きとして、ディスティネーションウエディングという、外国人のカップルが全世界のご友人を日本に招いて結婚式を挙げるというスタイルも出てきている。

課題としては、人材不足。ブライダルの今後のスタイルは変わっていくのではないかと。

佐々木氏：コロナ以前には戻っていないが、婚姻件数は微増ではあるが、披露宴実施率50%を切っている。ブライダルメディアと業界を後押しできるような発信ができればと交流を図っている。

ウエディングツーリズムとして、外国人が日本で結婚式を挙げ、また観光も楽しむという需要がある。今年30周年を迎え、11月にイベントを予定。

カスタマーハラスメント防止ガイドラインとして、業界マニュアルを作成準備中。

角野氏：ブライダル需要が減っている状況。集客が課題。

業界全体を盛り上げていく活動に注力していく時期にきていると感じている。

それが学生たちの活躍できる場をつくることにつながっていくのではないかと。

牧野氏：ディズニーホテルは、一般宴会・ブライダルともに非常に好調。

先日のブライダルイベントでは、想定の数倍以上のお客様にお越しいただいた。

宿泊は、猛暑と大阪万博の影響で前年対比若干下回った。

大久保：コロナ禍を経て、業界の状況が変化する中、変わってきていることはあるか。

山下氏:カップルが出会うきっかけとして、マッチングアプリが多い。
出会ってから結婚までの期間・お互いを知る時間が短いことを踏まえて、アプリの知識や接客スタイルを考える必要があるのでは。また、AIを使ったブライダル接客や AI モデルを活用して効果的な宣伝用写真撮影を取り入れている。

2. カリキュラムについて

・25年度より90分授業での運営がスタート

実践的により深く学ぶことで、体現しながら理解度・技術の向上、習得につながっている。

現場でどこまでのスキルがあると良いか。

牧野氏:敬語の種類や使い方が乏しく、会話の幅がないと感じる。

先輩と話す際と同様に、お客様とも会話をしてしまっているのが、敬語についてより指導していただきたい。

風間氏:電話に出ないのと着信があっても折り返しかけない人が多い。

メールの頻度のほうが多く、電話の機会は減っているものの、お客様や内線電話の対応はあるので、その教育も大切だと思う。

角野氏:電話に不慣れで、電話対応がスムーズにできない。

大久保:会話力やコミュニケーション力をつけるためには、どうしたら良いか。

山下氏:年代の違う方たちと会話を広げられるような場を作ると良いのでは。

角野氏:目上の方と接する機会や、実践の機会を増やすことが良いと思う。

大久保:SNS マーケティングについて

ホテル科は授業で作成した内容を SNS にアップしたりしている。ブライダル科はフォト・ムービーの授業で撮影・編集はしているが、次年度に向けて準備段階。

パソコンスキルの必要性について、現場でタブレットをどのように活用しているか。

SNS やマーケティングに関する知識は、どうやって学んでいるのか。

風間氏:マネジメントサービスという専属の部署を設けている。

学生のほうが若い頃から身近にあるので、使いこなしているのでは。

使い方を教えるよりも、コンプライアンスのほうが大事なのではないか。

牧野氏:マーケティングに携われるのは部署で考えると少数になるので、デザインの知識や技術よりも安易にアップすることでのリスクなどコンプライアンスをお伝えしたほうが良いのでは。

角野氏:プランナーは、タブレットを1人1台持っている。

基本的なビジネスメールが打てない人が多い。

風間氏:ビジネスメールが苦手。特にブライダル部門から、メール研修をしてもらいたいと声があがっている。ビジネスメールがしっかり打てるように教育してもらいたい。

3. 就職活動・企業実習状況について

就職活動

2026年卒（8月末現在）

・ホテル科 41名在籍中 40名内定 内定率 97.6%

・ブライダル科 51名在籍中 42名内定 内定率 82.4%

・夜間部 8名在籍中 7名内定 内定率 87.5%

企業実習

夏期企業実習（2027年卒対象）

・ホテル科 50名在籍中 45名

- ・ブライダル科 55名在籍中 54名
- ・夜間部 夏期限定での実習はなし

小川:実習期間についてのご意見をいただきたい。(夏期:約6週間・冬期:約3週間)

牧野氏:実習期間をのびた方が良いのではないかと。言葉遣いひとつとっても、実際に働いてみて色々な人と接することで気づくことや身につくことがあると思う。ようやく1人でできるようになったら終わってしまうので、独立してできるようになるまで実務経験を積ませたほうが学生にとっても良いと思う。

風間氏:長いほうが良いと思う。戦力にもなってもらっている。ホテルで働く楽しみを見つけてほしい。

角野氏:長いほうが良いと思う。他校だと1年実施のところもある。

進行小川により閉会

【分科会】エアライン科

進行:松本により開会。

1. 就職状況について

25年度エアライン科2年生 11名在籍中 10名内定(内定率90.9%)
未内定者1名は現在(9/3現在)就職活動中。
業務研修(早期就業)決定者
10月開始:4名

松本:航空業界の人材は充足しつつあるのか

松井様:グランドスタッフは離職率が下がっている。Come back採用で、多く採用あり

2025年から国際線を増加させる予定であったが、現状ペンディング中。2027年から改めて増やす動きとなっている。グランドハンドリングは定員が届いていない状況。

小林様:グランドスタッフやCAになりたかった方が入社し、インフォメーション業務でのスキルアップを経て、再度GSやCAにチャレンジしている。

昨年より、契約職員から特定職員(正社員)にしたところ、離職者が軽減された。

2. 2026年度入学生カリキュラムについて

26年度も25年度と同様に2コース編成だが、コース名変更。
(キャビンアテンダント/エアポート→グランドスタッフ)

25年度からANA総研と企業連携

1年生授業:エアライン・サービス論、エアライン・ビジネス論、就職面接対策3コマ

2年生授業:卒業制作 → 2年次どのような授業が妥当か

松井様:1年次は航空業界の仕事や職種の紹介を入れた授業

パソコンスキルは必要で、タイピングが出来ることを前提に、今後は生成AIを学ぶ授業を入れてみてはどうか

3. エアライン業界の現状

<p>松井様:留学生のVISA(技人国)は、グランドスタッフ職は問題ないがグランドハンドリング職は現状では難しい。</p> <p>小林様:インフォメーションでは、ポケットークを使用して多国籍のお客様対応を行っている</p> <p>進行:松本が分科会を閉会した。</p>
--

2025 年度第 2 回教育課程編成委員会議事録
(観光科・テーマパーク科・鉄道科・国際ホテル科・ブライダル科・エアライン科・デュアル科)

日 時	2026年2月26日(木) 13:00~13:40	場 所	バンケット実習室	進 行	石神	記 録	塚本
--------	------------------------------	--------	----------	--------	----	--------	----

出席者		企業名・団体名	名前(敬称略)	分科会
	1	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部 幹事 千葉県支部 支部長	市丸 健介	観光・鉄道
	2	東武鉄道株式会社	遠藤 陽平	観光・鉄道
	3	株式会社ジャッツ	佐々木 徹	エアライン
	4	株式会社 エコーパートナーズ	松井 哲至	エアライン
	5	ホテルニューオータニ幕張	風間 昭彦	ホテル
	6	株式会社 オータパブリケーションズ	山下 裕乃	ホテル・ブライダル
	7	公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会	佐々木 貴夫	ブライダル
	8	ホンダモビリティランド株式会社	大塚 達也	テーマパーク
	9	株式会社 C・B・H	角野 真	ブライダル
10	株式会社ミリアルリゾートホテルズ	牧野 一	ホテル	

学校側 10 名
古川、北、石神、大久保、松本、塚本、長谷川、小川、富澤、柳堀

議 事 録	<p>【全体会】13:00~13:40</p> <p>1. 学校長挨拶 国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 校長 古川 博文</p> <p>・3/13(金)卒業式 152 名卒業予定 ・4/7(火)入学式 223 名の新入生 2026 年度は学生数約 70 名増加での運営がスタートする。 業界の環境は変化しており、皆様からのご助言を賜り、これから求められる人材育成に活かし、進化していきたい。</p> <p>2. 次年度 新任委員紹介 株式会社 JATS 営業戦略本部 成田空港事務所 所長 佐々木 徹 様</p> <p>3. 業界動向報告(観光業界動向) 一般社団法人日本旅行業協会 関東支部 幹事 千葉県支部 支部長 市丸 健介 様</p> <p>市場回復の状況は、国内旅行市場はコロナ前と比べ 110%、海外旅行市場は円安の影響により</p>
-------------	--

アジア圏では95%まで回復している。
訪日外国人数は4千万人を超え、過去最高の水準となった。
デジタル化が進み、オンライン予約が充実している。個人旅行はオンラインでの予約が85%と前年度より10%アップとなった。
在宅勤務やワーケーションの需要も定着化してきている。
団体についても、企業研修旅行など復活してきている。
AI/DXの拡大により、チャットボットによる技術・VR技術を活用したメタバースなどがひとつの位置づけとして進んできている。

課題として、人材不足や燃料費の高騰が挙げられる。
対策として、DXによる業務効率化やカーボンニュートラルの取り組みを行っており、今後も業界発展のために努めてまいりたい。

4.今年度産学連携授業報告

国際ホテル科リーダー 大久保 昇

2026年1月28日 産学連携プレゼンテーション実施

主旨:長く業界で働く人材となるための基盤を創出すること

目的/内容:業界と連携した実践的な学習を通じて、専門学校生ならではの視点から業界への問題提起を行うとともに、業界理解を深め、社会人としての基礎力を身につける。

参加企業:17社(26名)

実施結果:多くの企業の皆様に参加していただき、学生目線での発想に対して、前向きな評価をいただいた。学生にとっても、グループワークを通してプレゼンテーション力向上につながり、また欠席する学生も少なく学習意欲向上にもつながる機会となった。

5. 2026年度教育関連事項

過去の会議内容総括(2022~2024年 人材モデル総括)

今まで皆様からいただいた貴重な意見をもとに、改めてどういった人材が必要なのか。

- ・国際感覚/多文化理解
- ・変化に対応する柔軟性
- ・長く働ける職業意識
- ・人手不足に対応できる実務力

→今後は、計画性・積極性・適応力・柔軟性 が必要になってくるのではないかと。

カリキュラム変更①:共通カリキュラム変更

- ・新年度生「社会人教養」の実施(複数職員担当)

将来のお金/保険・メンタルヘルス・セルフマネジメント・ハラスメントに対する知識などを取り入れ、業界で長く働くためのスキルを養う。

カリキュラム変更②:専門カリキュラム変更

- ・常勤職員中心の授業再考案
- ・キャリアデザイン、学生のサポート体制強化

石 神:ホテル業界でAI技術など取り入れていることや取り組みなどありますか。

風間氏:予約の経路は大きく変わってきていて、オンラインが主流である。

今後、顧客の共有・管理できるものを検討している最中。

【分科会】13:45~14:25

●各学科(ホテル・ブライダル・観光・鉄道・エアライン・テーマパーク)に分かれて実施

【分科会】観光科、鉄道科

進行:富澤により開会。

1. 学生情報について

富澤

○26年3月卒業生

・観光科 9名中9名内定(内定率100%) ・鉄道科 18名中18名内定(内定率100%)

両学科全員内定となった。

○26年4月～在籍数

・観光科 1年生6名 2年生4名 ・鉄道科 1年生28名 2年生11名

観光科希望学生が減った理由→大学競合校への進学が増、都内専門学校では観光系のコースを廃止している学科も増えてきた。

鉄道科が増えた理由→他校に比べて小規模で運営していることが理由として考えられる。また、鉄道業界への就職が多いことも理由として考えられる。

2. カリキュラムについて ～前回の課題に対する「学校側からの報告」～

富澤

○観光科

・市丸様から頂きましたお言葉に対するカリキュラム反映

・ イベント企画や運営を出来る人材を求められている。

→1年次よりイベントプランニングの授業を導入する。

・ 人を案内したり、話したりする人材や地域創生ができる授業

→添乗実務や観光実務の授業内で取り組むことを検討している。

企業様の協力により授業内容強化

○鉄道科

・遠藤様から頂きましたお言葉に対するカリキュラム反映

・働く価値観について

→業界ガイド内で企業様との連携を多く取り入れていく。

遠藤様

・以前要望したメンタルヘルス強化等提案したことを実行したことは良いこと。今後は効果測定を行い企業側にもフィードバックをしていただきたい。

3. 実習について

富澤

○共通項として観光科/鉄道科共に実習は2年間で150時間とする。

○観光科

・現状、旅行の仕事としての実習目途が立っていない。派遣添乗や内勤業務で学生ができるものか。

ただし、接客という大枠の中で何も無い場合にはリゾートホテルでの実習等を検討中。

市丸様

現在学生のインターンは少ない。支店内でのアルバイト等はほぼ無い。添乗業務等の補助などとして同行する等は考えられる。また大型イベントの運営の補助等が考えられる。長期的な実習は難しい。

一案として現在上京している学生を案内する案件がある。それを学生に行わせてみればどうか。

北

ご提案いただいた案件について学生にとって貴重な機会となると思われるので今後実施していきたい。

○鉄道科

・JR 東日本、東京地下鉄、富士山麓電気鉄道(河口湖ロープウェイ)を中心に短期インターンや、小湊鐵道/トロッコ列車内での販売実習での実習がメインになる予定。ただし、全員が鉄道系での実習は時間や居住地を考慮し難しいと想定。ホテルでのアルバイト等も視野に入れている。

都内は1限まで実習(~11:00)、その時間帯まで必要であれば次年度以降検討

遠藤様

東武鉄道では難しいが実習という考えは良い社会経験となり大きな意義がある。社内でもイベント等を開催しており、その際学生へのイベント参加という形で社内検討することは可能。

進行:富澤が分科会を閉会した。

【分科会】テーマパーク科

進行:石神により開会

1.【前回】企業に必要なスキル・今後の人材育成に関して

大塚様 : アルバイトをしていない、世の中の事をまだ知れていない人はビジネスマナーを学校で学び身につけてほしい。

折原様 : 以前より働いてからでないと一般教養などが備わっているのかわからないようになってきている。体調不良の連絡や前日連絡できることを、当日になってから連絡するなど当たり前があたりまえでなくなってきており、マナーとして覚えてほしいと感じる事がある。

2.現状の共有

大塚様 : インターンから就職へというつながりが弱く、春夏実施しているが選択肢に入らず難しいと感じている。昔の考えや教え方ではなく今に合わせた考え方が必要かと思う。

石神 : 確かに昔と今の環境面や指導等含めて変わってきている。多種多様の考え方やケアの仕方含め配慮が必要と感じる。メンタルケアやセルフマネジメントを授業内で取り入れるようにする。システム化によって変化などはあるか。

大塚様 : チケットのシステム化により紙ベースのチケットはもう廃止になっている。

語学に関してはお客様から英語を聞くことが増えたかと思う。

折原様 : 人員が潤うことはないが、卒業等で抜けていく人は多い為なかなか難しい状況。

主婦層の方も働きたいという声は多くあるが、最低賃金が上がる一方扶養控除の関係で働ける時間数は伸びない為国単位で考える必要がある。

石神 : AI化が進む中業務をAI化したことで人員を回すことが出来ている等の状況変化はあるか。

折原様 : 現在はそのような流れにはなっていない。関西のカドゥーには英語が話せるスタッフが多くおり、言葉の壁にぶつかることは少ない。各セクションに翻訳機があることもあり、若い世代の方がコミュニケーションツールの一つとしてしっかりと使用出来ていると感じている

3.新年度エンターテイメントダンスコース・クルーズコース募集に関して

・ダンス専攻:8名

・エンターテイメントダンスコース:現行のコースからダンス・エンターテイメント授業を130時間増

・クルーズコースカリキュラム案

4.実習等受入れに関して

・次年度テーマパーク科2コース(テーマパークコース/エンターテイメントダンスコース)で運営。

テーマパークコース:28名/エンターテイメントダンスコース:3名

5.テーマパーク業界の受入れ・人材確保に関して

石神 : テーマパーク業界の受入れ。人材確保に関してここ数年での変化があれば改めて教えて頂きたい。

大塚様 : 少子高齢化で子供が減ってきているが、専門学校に学生が増える理由は知りたい。

石神 : インバウンドの影響でテーマパークの人気が増えているところもあるが、国数社等の勉強を苦手とし一般教養ではなく、何かに特化した業界に目が向けられているのだと思う。

高校も普通科に入る時代からネット、芸能、ゲーム等様々な進路が設けられているという世の中の流れもあり選択肢があるというのはいいい事かと思う。

進行:石神により分科会を閉会した。

【分科会】ホテル科、ブライダル科、デュアル科

進行小川により分科会を開会

1. 開会・趣旨説明

●前回課題への改善報告と合意

第1回で指摘のあった「敬語・会話力の不足」「電話・メール対応」「SNS コンプライアンス」について、カリキュラム改善案を提示し、その内容についてご報告。

●次年度の産学連携方針の策定

オンラインでの開催となりますが、本日は40分という限られた時間の中で、より現場のリアリティに即した実効性の高い議論をお願い申し上げます。

2. 各業界・各企業の最新情報および動向の共有

○山下裕乃氏／株式会社オータパブリケーションズ

業界全体は厳しい状況にある。東京では八芳園・椿山荘・オークラ・帝国・ニューオータニ・パレスホテル東京・東京会館などの主力施設が件数・列席者数ともに堅調を維持している一方、関西・名古屋エリアは組数・列席人数・単価のいずれも下落傾向にある。ゲストハウス系ではテイクアンドグブニーズ・プラントゥシーが堅調だが、それ以外は苦戦している。

今後の展望として、ウェディングプランナーの「寄り添う姿勢」はMICEプランナーへの転換に親和性が高く、MICEを授業に取り入れることを提案。また、キャリアアップを望まない学生が多い現状に対し、「目指すべき先輩」を招いてキャリアアップ後の世界を語ってもらう機会の設置を要望した。コミュニケーション能力については、スマートフォン・AIとの対話に慣れた若い世代に「人にしかできない仕事の価値」を伝える外部講師招聘を全学科共通の課題として提言した。

○佐々木貴夫氏／公益社団法人日本ブライダル文化振興協会

前回提案のウェディングツーリズムは引き続き試行錯誤中であり、具体的な報告は次回以降となる見込み。カスタマーハラスメント対策については、BIA(業界団体)として共通マニュアルを作成・会員企業へ公表済みであり、各社が自社対応マニュアルを整備する動きが広がっている。東京都・愛知県など自治体レベルでも同様のマニュアル策定・推奨の動きが出ている。

○角野真氏／株式会社C・B・H

今期(2月末時点)の稼働率は昨対比83%と苦戦しているが、次年度は136%の見込みで回復の兆しがある。施策として「ローコストモデル」を一部店舗で導入し、一般婚礼への誘導を図っている。また「脱ゼクシイ」を目標にSNSを中心とした各店舗独自の集客施策を展開中。

人材面では昨秋に調理長・副調理長クラスがホテルへ転職する離脱が相次いだ。対応として年間公休を120日に増加、含み残業(21時間)を撤廃し、一般企業並みの労働条件を整備した。さらに「異動チャレンジプロジェクト」を実施したところ、40代プランナーを中心に人事総務部門への異動希望者が予想以上に多く、育成・後進指導への意欲が高いことが判明。プランナーが「一生できる仕事」と感じられる環境整備を企業の責務として強調した。

○牧野一氏／株式会社ミリアルリゾートホテルズ

ディズニーホテルはウェディング・法人宴会ともに好調で、法人インセンティブ需要が旺盛なため予約が取れない状況が続いている。パーク連動型の宴会(食事後にパーク利用)が担当者の企画負担を軽減する点で支持されている。課題はアルバイト(準社員)の確保難。正社員については一定数を確保できているが、現場配属後に離脱するケースが一定数存在する。

対応策として、ホテル部門とサポート部門(人事総務等)を社内で明確に分離し、入社時に所属を決定する体制に変更。ただし「いずれサポート部門へ移りたい」と考えていた人材が離脱するリスクも懸念している。バディ・メンター制度(新卒に先輩メンターを付け月数回の面談を実施)を全部門に導入しており、早期離職防止と職場環境改善に効果を上げている。

○風間昭彦氏／ホテルニューオータニ幕張

宿泊・レストラン・宴会ともに好調な1年となった。宿泊は稼働率・単価ともに上昇(幕張メッセの影響も一因)。一般宴会は法人・周年イベント需要が重なり好調。ウェディングは新規来館者数が年々減少しているため、成約率

向上と1件あたりのF&B単価引き上げで前年並みを維持している。来年度は宿泊を中心とした成長を目指し、繁閑差の平準化に取り組んでいる。

若手スタッフの離脱が課題であり、24時間シフト勤務の肉体的負担と「目標にできる先輩がいない」ことが主因と分析。既存中堅スタッフのリーダーとしての魅力向上と採用枠拡大を並行して進めているが、即効性には限界があると率直に述べた。なお、学校との「リアルウェディング」連携イベントは現場スタッフ・プランナー双方にとって学びの機会となり、好評であったと報告した。

3. 前回の課題に対する「学校側の改善報告」

前回の意見を受け、敬語・電話対応・ビジネスメールの授業化に向けた動きが始まっている。SNSリテラシーおよびコンプライアンスについても次年度以降の共通科目への追加を検討中。

4. 重点協議:各業界と本校の在り方

・【現場からのフィードバック】卒業後に「足りない」と感じる要素の特定

昨年度の「電話・敬語」以外に、最近の新人(卒業生)を見ていて、「ここを在学中に学んでおいてほしい」と感じる補足的なスキルについてお伺いします。

現場から学校への要望として最も強調されたのはマインドセット教育である。

角野氏:「知識・技術は現場で習得できるが、物事の捉え方・心の鍛錬には時間がかかる」と述べ、ポジティブな思考変換ができないことが離職の主因になっていると指摘した。

牧野氏:同意し、「心の持ちよう」を養う授業の導入を要望した。

大久保:「自己表現・自己開示の力」も関連するとして、今後のカリキュラムに取り入れる意向を示した。

5. 就職状況報告・閉会

2026年卒 内定状況報告 (2月20日現在)

- ・ホテル科 41名在籍中 41名内定 内定率 100%
- ・ブライダル科 51名在籍中 48名内定 内定率 94.1%
- ・夜間部 8名在籍中 7名内定 内定率 87.5%

6.まとめ・今後の対応

委員会では以下の対応方針が確認された。

- ・キャリアアップの意義を伝える(ロールモデル招聘授業)の実施を検討
- ・MICEをキーワードとした授業内容の拡充
- ・マインドセット・コミュニケーションを軸とした授業の導入
- ・敬語・電話対応・ビジネスメール・SNS・コンプライアンスの授業化を次年度以降に順次実施
- ・産学連携(リアルウェディング等)の継続・拡充

時間の制約から深掘りできなかった議題については、次回以降に改めて確認することとなった。

進行小川により閉会

【分科会】エアライン科

進行:松本により開会。

1. 就職状況について

25年度エアライン科2年生 11名在籍中 11名内定(内定率100%)

26年度エアライン科2年生 12名在籍中 2名内定(2月26日現在)

・前回(9月)の分科会で、「航空業界の人材は充足しつつあるのか」について意見交換

松井様:グランドスタッフ職は離職率が下がっている。グランドハンドリング職は定員に届いていない。

小林様:当社では昨年より、契約職員から特定職員(正社員)にしたところ、離職者が軽減された。

松本:27卒募集が開始したが、各社募集人数が減少しており現1年生は苦戦している。

松井様:募集状況について

成田空港のGS職は充足している。

27卒の一部企業の採用は増加傾向。

その他ハンドリング企業(成田) 募集は例年より少ない印象、外交便のハンドリングは中国路線減少の影響が大きい。

2. 2026年度入学生カリキュラムについて

・26年度も25年度と同様に2コース編成だが、コース名変更
(キャビンアテンダント/エアポート→グランドスタッフ)

松本:26年度入学予定者は28名(キャビンアテンダントコース5名・グランドスタッフコース23名)

・25年度からANA総研と企業連携

1年生授業:エアライン・サービス論、エアライン・ビジネス論、就職面接対策3コマ

2年生授業:卒業制作 → 前回(9月)の分科会で、2年次どのような授業が妥当かについて意見交換

松井様:1年次は航空業界の仕事や職種の紹介を入れた生成AIを取り入れた授業はどうか

松本:前回(9月)の意見交換を踏まえ、26年度カリキュラムについての報告

1年次は航空業界の仕事や職種の紹介を入れた授業 → ANA総研1年次授業で実施

生成AIを取り入れた授業 → 1年次新規授業「SNSプロモーション」で実施可能か(保留)

・ANA総研との連携授業

1年次:エアライン・サービス論Ⅰ/エアライン・ビジネス論Ⅰ

2年次:エアライン・サービス論Ⅱ/エアライン・ビジネス論Ⅱ

1年次は航空業界の仕事や職種の紹介を入れた授業。

2年次は25年度のカリキュラムにあった「卒業制作」を廃止。リスクマネジメントやヒヤリハットの事例を学び対策案を考える内容のカリキュラムに変更。各職種の外部講師による講演も実施。

・新規授業※カリキュラムから抜粋

1年次:言葉と文化のコミュニケーション講座

外国籍の入学者が増加しているため、美しい日本語と共に文化についても学ぶ内容

松本:文化を学ぶことについてご意見を伺いたい

松井様:非常に必要と考える

外国籍の職員が増加しており、日本人の考え方と不一致がある。特に勤怠、時間など

日本で働くので、日本の社会を事前に知っておくのは非常に大事。入社後のギャップも減るはず

松本:日本人と外国籍の社員の教育について差はあるか?

松井様 外国籍を採用時に分けている

①技人国ビザ保持者:採用基準は日本人と全く同じなので日本人と同様の教育が可能。

②実習生(日本語レベルN4程度):週一で日本語勉強会実施。教材もルビ付きで支給。

松本:2年次の新カリキュラムでリスクマネジメントについて学ぶ内容は、入社後役立つか?

松井様:リスクマネジメントやヒヤリハットの内容は入社後に座学で実施するが、学校で事前に行うのは良いと思う。

3. エアライン業界の現状

松井様:成田空港は 運航便数や集客についてもコロナ前の水準に近付いてきた印象。
26 冬ダイヤ増便、27 夏国際線増便、
C滑走路運用、ワンターミナル化など今後も成田空港改革の動きがあるが現場では実感は薄い

離職率:全体的に低い

エコーパートナーズ離職率:目標は18%未満だったが14%未満に改善した。公休数を増やした背景あり

佐々木様:旅客送迎業として 日本人旅行者増加。訪日旅客も安定して伸びている。インバウンドについては、中国便減少が課題。

施設関連では、来年3月に第2ターミナルの旅行会社カウンターが現3階から2階へ移転。

進行:松本が分科会を閉会した。